

【熊本日日新聞「熊日プレジデント倶楽部」に当社社長が掲載されました】

2018年1月5日
積水ヒノマル株式会社

<掲載記事>

2018年1月1日付 熊本日日新聞 新年号 第5部「熊日プレジデント倶楽部」15面(下記は同記事より抜粋)

積水ヒノマル株式会社

SEKISUI 積水ヒノマル 株式会社



代表取締役社長 嶋田 一眞氏

実現できるのでは、と手応えを感じています。
 ― 現在、力を入れておられることは。
 嶋田 中期3カ年計画の初年度でもあり、アグリ、管材・住資、建設、成型品のメイン4事業がそれぞれ、テーマを持って需要拡大と付加価値創造に取り組んでいるところです。この中期3カ年計画は、「農業と食と社会インフラを支える」という経営方針に基づき、しっかりと地に足を着けた事業を展開していくことに尽きるところです。現在のエリアの中でシェアを上げることに集中しています。

「1000年企業」へプロジェクト始動

― 創立70周年の次は1000年企業ですね。
 嶋田 これからの積水ヒノマルを担っていく若手社員で「1000年プロジェクト」を立ち上げ、30年後の積水ヒノマルがどんな会社になっていけばよいか、皆で議論し、それをまとめて発表を終えたところ。大膽な面白い提案がたくさん出ました。その提案を基に、今度から中堅社員が次の中期3カ年計画の策定を始めたいです。このように、若手と中堅社員がお互い議論しながら計画を策定していく、それが積み重なって、結果として1000年企業になる。

― 社長になられて2年目、昨年ほどのような年でしたか。
 嶋田 非常に充実した、中身の濃い一年でした。お客さまからご指導いただき、いろんなご提案もあり、勉強になりました。昨年1月、社名がヒノマルから積水ヒノマルに変わりましたが、積水化学グループの一員として、積水化学の研究開発力や資源をこれまで以上に活用しているため、仕事上のやり取りが広がったと、お客さまも歓迎されています。また昨年は、創立70周年の記念の年ということで増収増益を目指し取り組んできました。上期が昨年9月に終わり、売上高はおかげさまで前年同期比5%増の伸長でした。下期も予定通りにいけば増収増益を

たね、というのがいいのかなと思っています。
 ― 今年、取り組まれないことは。
 嶋田 熊本地震からの復旧・復興をお手伝いする中で、積水ヒノマルにできることが多いことに自信を深めました。例えば、水道や下水道が使えなくなったり、弊社には資材がそろっているため工事ができず、弊社には資材がそろっているため工事ができず、避難所に食品トレーをお届けして大変喜ばれました。今後も、事業を通して社会に貢献できるよう、地道に、真面目に仕事に取り組んでいきたいと思っています。そして、物流の改革にも着手したいですね。そして何より、社員みんなが自分の健康と家庭を第一に考え、仕事を頑張り過ぎず、余裕を持ってやってほしいと願っています。



新社屋の外観

会社概要

所在地 〒862-8660 熊本市中央区九品寺5丁目7-29
 ☎096(372)4747
 創 立 昭和22年2月
 事業内容 アグリ事業部: 肥料、植葉、園芸・産業資材の販売、園芸施設等の工事
 管材・住資事業部: 管工機材・住宅資材の販売
 成型品事業部: プラスチック軽量食品容器の製造・販売、食品包装資材の販売
 建設事業部: 土木資材の販売、交通安全施設、法面保護、景観施設の工事
 資本金 6億7,250万円
 役員 代表取締役社長/嶋田一眞
 常務取締役/田中秀一郎
 従業員数 301人
 事業所 本社/熊本、福岡
 支店/営業所/福岡支店ほか13工場/鳥栖、関東
 グループ 積水化学グループ
 関連会社 タイハク㈱、第一銅管㈱、ほか3社